

児童発達支援・放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

STAFF

公表：令和 8年 2月 25日

事業所名 **デージーくらぶ**

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7		活動内容に応じて、地域交流スペースやフロア全体を活用している。	建物内の地域交流スペースを活用するなど、活動に合わせたスペースの確保を図る。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか	7		基準はクリアし、常勤職員を配置している。	外部研修への参加や内部研修での自己啓発や資格取得を図る。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか	7		床マットの色での区別やBOXを活用した間仕切りを行っている。また、写真やイラストによる視覚提示をしている。	パーティションや静養室を活用し、個々の特性に応じた過ごし方を工夫していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7		毎朝夕の消毒・清掃を行っている。また、時間ごとの換気を行い、24時間稼働の空気清浄機を設置している。	毎日の掃除や消毒を今後も徹底し、清潔な環境に努める。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか	7		職員に声掛けをするようにしており、見守りもやっている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	7		毎日の活動の予定検討と振り返りを朝夕に行い、グループ会議やスタッフ会議を通じて協議検討を行っている。	グループ会議とスタッフ会議の充実を図る。
	7 保護者等向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	7		評価表の集約を行い、分析・検討を行うことで、スタッフ間での共有化を図る。	評価表の分析だけでなく、日常のお迎え時の会話や連絡帳を含めた「声」に耳を傾けるように努める。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか	7		朝夕のミーティング、スタッフ会議はもちろん、日常的な意見表出ができる職場の雰囲気づくりに努めている。	業務分掌を行い、「責任と分担」を図る。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		7	第三者評価は未受審であるが、実習生への聞き取りを行っている。	第三者評価の共通評価基準・サービス内容評価基準を参考に、自己評価を行っていく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか	7		法人研修への参加、職場内研修の実施と外部研修への参加と復命を定期的に行っている。	職場内研修では、「発達・人権・リスクマネジメント」の3分野に分け、職員が企画した研修を実施しており、今後も継続していく。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか	7		5領域について研修を行い、スタッフで協議して、「デージーらしさ」を考え、作成している。また、HPに掲載している。	年度ごとの見直しを行っていく。
	12 個々の子どもに対して、アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	7		5領域に基づいた支援プログラムの説明を行っている。アセスメントに基づいたモニタリングの共有化とケース会議を行い、支援計画のプランニングに活かしている。	日々のミーティングを行い、ケース会議につなげ、支援計画に活かしていく。
	13 個別支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか	7		日案、月案を日々の振り返りを元に、ケース会議やグループ会議でプランニングを行っている。	ミーティングやケース会議からの意見を活かしながら、日々の活動の様子を共有化し、プランニングを行う。
	14 個別支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか	7		ケース会議でモニタリング、プランニングをスタッフ全体により行い、日常的な支援にも活かしている。	ミーティングやケース会議からの意見を活かしながら、今後も日々の活動のプランニングを行う。
	15 子どもの適応行動の状況を標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか	7		標準化されたアセスメントシートを活用しながら「特記事項」や「留意事項」に着目し、個々の特性を把握するように図る。	本人の利用時の様子やモニタリングによって、アセスメント内容の修正を行っていく。
	16 個別支援計画には、ガイドラインの「提供すべき支援」の「本人支援」「家族支援」「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な網目が適切に設定され、その上で具体的な支援内容が設定されているか	7		基本的な生活習慣や集団性、社会性の獲得を目指した活動に取り組んでいる。さらに家族環境や地域・学校での様子を把握しながら、包括的な支援につなげるように図っている。	ガイドラインに依拠しながら、保護者のニーズや日々の支援からの課題を含めた活動を進めていく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか	7		グループ会議で日案や月案の検討を行い、行事や企画づくりに活かしている。	ミーティングやケース会議からの意見を活かしながら、今後もプランニングを行う。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7		子どもたちからの意見も取り入れながら、プランニングを図っている。	年長児のリーダーシップや「子ども会議」の開催により、「自分たちで考え、行動する」活動を伸ばしていく。
	19 子ども状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成し、支援が行われているか	7		年長児によるプログラムの企画づくりからの参加や「今日の係」といった役割分担を行っている。	活動の企画づくりや役割分担を進めていく。また、年長児のリーダーシップを伸ばす活動を行っていく。
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか	7		毎朝にミーティングを実施し、夕方に振り返りを行っている。	今後も開始前のミーティングで活動予定の確認を行い、具体的な行動や役割分担の共有化を図っていく。また、振り返りを次の日の活動に活かしていく。
21 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7				
22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7		必要に応じて、業務日誌に個別記録を記載している。また、保護者との連絡帳に様子等を記述している。	業務日誌の個別記録やミーティングでの意見をくみ入れながら支援計画につなげられるように図る。	
23 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか	7		モニタリングや日々の保護者からの聞き取りをミーティング等で、スタッフ間で共有化している。	今後も共有化による支援計画の見直しをケース会議を通して実施していく。	
24 ガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか	7		基本的な生活習慣や集団性、社会性の獲得を目指した活動に取り組んでいる。	ガイドラインを検証し、今後も保護者のニーズや日々の支援からの課題を含めた活動を進めていく。	
25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか	7		集団活動を行う際には、子どもたちの意見を尊重し、長期休暇期間には、年長児によるプログラムの企画づくりからの参加や「今日の係」といった役割分担を行っている。	今後も、年長児のリーダーシップや子どもたちの意思決定を尊重した活動づくりに努めていく。	

関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか	7	児童発達支援管理責任者及び担当者を中心に参画している。	あらかじめスタッフ間で共有化した意見をもとに、会議に参加し、会議後は内容を共有化するよう図る。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか	7	必要に応じて、相談支援事業所を通して関係者と連絡を取り、関係者会議の開催を要請している。	日々の活動の様子から、必要に応じて相談支援事業所を通して、関係者との連携を図っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	7	適時、情報交換を行っている。また必要に応じて連絡帳を作成し、情報交換を行っている。	毎月の行事予定や下校時間等を確認し、送迎の際には引き継ぎを行っていく。また、必要に応じて今後も連絡帳を共有化し、活用していく。
	29	保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で、情報共有と相互理解に努めているか	7	必要に応じて、保護者や相談支援事業所からの情報収集に努めている。	今後も連携を図っていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	7	必要に応じて、相談支援事業所に担当者会議の開催を要請している。	本人の利用時の様子に応じて、相談支援事業所を通して、相互の情報共有を図る。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言、研修を受ける機会を設けているか	7	必要に応じて、相談支援事業所に担当者会議の開催を要請している。また、児童発達支援センター主催の研修に参加している。	今後も情報の収集と連携に努めて行く。
	32	保育所、認定こども園、幼稚園等や放課後児童クラブ、児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか	7		今後、必要に応じて検討していく。
	33	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	7	自立支援協議会教育部会に参加し、市内放デイ事業所による連絡会を開催し、情報交換に努めている。	まず、市内の他事業所との交流・研修の機会を持てるよう、図っていく。
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7	連絡帳でのやりとりや送迎時の保護者との伝達で、コミュニケーションを図っている。また、定期的なモニタリングで共有化を図っている。	日頃の様子を伝達しながら、必要に応じて話し合いの場を設けている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか	7		必要に応じて、検討していく。また、市内の他事業所との連携を図っていく。
保護者への説明責任等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7	契約時、変更時には必ず面談を実施している。また、子どもたちからも意見や要望を聞き取っている。また、定期的なモニタリングで共有化を図っている。	子どもたちからの意見や要望を尊重し、保護者との契約時には複数で対応し、チェックを行うよう図る。また、変更時には直接伝え、書面でサインを求めていく。
	37	サービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか	7		
	38	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から個別支援計画の同意を得ているか	7	支援計画について、6カ月以内で定期的に説明を行い、保護者の同意を得ている。	個々の状況に応じた支援計画の立案、作成に努める。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか	7	必要に応じて、モニタリングの機会を活用している。また、保護者の希望があれば、適時機会を設けている。	送迎時に日々の様子を伝え、連絡帳も活用しながら、相談に応じて必要な助言を行い、希望があれば適時機会を設ける。
	40	父母の会の活動を支援することや保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、兄弟同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか	7		必要に応じて、検討していく。また、市内の他事業所との連携を図っていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7	要望に応じて、個別面談を実施している。また、「気になる子や家庭」については、相談支援事業所を通して関係者会議の開催を要請している。	相談や申し入れの希望があった場合には、個別面談を実施していく。また、相談支援事業所との連携を図っていく。
	42	定期的に通信等を発行することやHPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	7	広報誌「Daisy」の定期発行とホームページでの「活動日誌」を発信している。また行事予定は事前にお知らせを配布している。	広報誌やホームページでの活動内容を発信し、マチコメールで連絡体制の整備を図っている。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか	7		ファイルの保管、取扱やデータの管理に注意している。
	44	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7	現在は該当する児童はいないが、様々な対応を検討している。	必要に応じて検討していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか	7		併設の高齢者施設との日常的な交流を行っている。他、必要に応じて検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、子どもや保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	7	BCPや各種対応マニュアルの整備を行い、スタッフ間で共有化している。また、災害に応じた訓練を実施し、子どもたちも参加したクイズ形式のゲームを行うなど、わかりやすく工夫している。	BCPや各種マニュアルについて、定期的な検証を実施し、様々な状況に応じた対応ができるように、訓練や研修を行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	7		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状態を確認しているか	7	利用前には保護者からのアセスメントを実施し、スタッフで共有化している。変更があった場合には随時共有化している。	引き継ぎや連絡帳での伝言で必要事項を伝え、随時電話連絡を行い、スタッフ間でも共有化を図る。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7	保護者とのアセスメントから適切な対応を図っている。	引き継ぎや連絡帳での伝言で必要事項を伝え、随時電話連絡を行い、スタッフ間でも共有化を図る。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか	7	安全計画を策定し、スタッフ間で共有化している。	今後、定期的な検証を行い、様々な状況に対応できるように図る。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取り組み内容について、家族等へ周知しているか	7	行事の取り組み・外出企画やプール遊びなど、具体的な内容については事前にお知らせをしている。	今後、情報提供を図っていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について、検討をしているか	7	ヒヤリハット、アクシデントシートを活用し、スタッフ間で共有し、改善する中で事故防止に努めている。	必要に応じて事業所内で作成し、共有化を図る。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7	法人研修・事業所内研修を実施している。また、スタッフ会議で「虐待防止小委員会」を設け、スタッフで共有化している。	チェックリストを定期的実施して、支援のあり方を自己検証し、研修につなげていく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	7	現在は該当する児童はいない。身体拘束に関する指針を理解し、スタッフ間での共通理解を図っている。	研修の機会を設け、共通理解を図る。